

緑のプール

コロナの影響で、今年度の水泳指導がなくなりました。私はこれまで水泳指導には力を入れてきました。六年の授業プランも立てていただだけに、最後の水泳ができなくてとても残念です。

かつては、二学期の始まりには水泳がありました。保護者の皆様もそうではなかったでしょう。また、暑い時期でもあるし、一、二週間は最後の水泳の時間となり、それが終わってから運動会の練習が始まるのが常でした。しかし、「学力向上」の声と共に、二学期の水泳指導を行わない学校が二〇〇〇年以降増えてきました。一学期の水泳指導がないのですから、水泳指導が一学期で終わり、お盆の頃には緑のプールになっている学校が増えてきました。

「緑のプール」

「ああこも。」車窓から見える小学校のプールが夏休みもまだ終わっていないのに緑色に染まっている。一学期で水泳指導が終わって二学期はもうないのだろう。二学期の水泳指導は、夏休みに泳いだ成果を確かめる時間だった。一学期に学習した内容を元に子どもたちは休み中に自分で泳ぐので、二学期の時点ではかなり泳げるようになってきている。そして、夏休みに泳いだ成果を確かめ、

「よく泳げるようになったな」とほめてあげる。二学期の水泳はそんな貴重な時間だったのだ。

それが、授業時数の確保と言うことで、多くの学校では二学期の水泳指導をしなくなった。二学期にしないんだからプールだけを浄化させておくのはもったいない。だから、休みに入ると機械も止めてしまおうとなる。

水泳指導の授業時数も少なくなった上に、夏休みの水泳指導もなくなる学校が増えてきている。「二学期の授業で泳がせることができなかった分、夏休みを使って泳げない子どもをどうにか泳がせよう」そんな教師の渾まない思い、熱い思いも失せた。これらの状況が、保護者が子どもをスイミングに通わせる原因となっているのではないだろうか。力を十分発揮できずに終えてしまう緑のプールが何とも哀れ。

二〇〇三年八月二十日

二学期に水泳指導を行わないのは、授業時数の確保というのが大きな理由ですが、全くの大人の勝手な都合です。夏休み中のプールの管理もしなくて良いし、浄化するための費用も節約できるので、教師にも管理者である市や町にも好意的に受け止められているようです。

これを止めたことで様々な問題が生じます。運動会の熱中症対策が大きな問題となっていますが、そもそもそんな時期に運動会の練習を運動場

でするのは危険です。また、熱中症対策と言うのであれば、運動会の開催時期をずらせばよいのです。本来運動会は、五穀豊穡を祝う秋祭りとしての性格がありました。元々「体育の日」があった十月十日前後に行っていました。暑さ対策のために時期をずらす。こんな簡単なことをどうしてできないのかと思うのです。

私は二学期の水泳指導は継続すべきだとずっと訴え続けてきました。しかし、「学力低下」「授業時数確保」の前には、そんな声は届くこともなく二学期の水泳指導がなくなってしまうました。悲しい限りであります。

連載―三六年間の教育を振り返る②―

「ゆとり教育」は時代の要請

私が教師になった八五年ごろには、既に「詰め込み教育」から「ゆとり教育」への転換が始まっていました。世間では「ゆとり教育」は学力低下を招いた諸悪の根源のように言われていますが、「ゆとり教育」が必要とされたのは、それ以前の教育、即ち私を含め、七〇年代、八〇年代の教育がどうだったのかを振り返ると、必要とされるのは明白です。

七〇年代後半から八〇年にかけては、学校が大変荒れた時期でした。「校内暴力」という言葉に象徴されるように、喫煙、シンナー、飲酒、教師暴力が日常見られ、「不良」「非行少年」「ツッパリ」などという言葉が流行りました。中学男子はまだ丸刈りであり、教師の体罰や校

則による縛りが進んだのもこの時期でした。荒れに対する強力な管理は、より一層の学校の荒廃を招きました。

大阪市内の中学校に通っていた私には、中学校時代は余り良い思い出はありません。アロハシャツを着たツツパリが廊下にたむろし、教師が殴られる場面を何度か見ました。小学校時代に仲良く遊んでいた友達から、金品を要求され、その友達との際限ない隔たりを感じたものです。学習についていけない子ども「落ちこぼし」が表面化し、「詰め込み教育」は荒廃を招いたとされ批判されたのです。

一方、こういった「荒れ」に向き合う教育実践も生まれました。「スクールウォーズ」（一九八四）が放送されたり、運動会でよく踊られている「南中ソーラン」（荒廃した稚内南中を民舞で立て直した取組み）などが生まれました。

私が教師になってからの教育の流れ

- | | |
|------|--|
| 1971 | 学習指導要領改訂
現代化カリキュラム（詰め込み） |
| 1980 | 学習指導要領改訂 |
| 1985 | 小学校採用となった七条養護学校で体育教師として教が始まる。 |
| 1988 | 養護学校から小 |
| 1992 | 学習指導要領改訂
新学力観（個性を
生活科の導入 |
| 2002 | 学習指導要領改訂
ゆとり教育「生きる力」
総合的な学習の時間
完全週五日制 |
| 2003 | 歯止めの撤回（発展的な学習） |
| 2011 | 学習指導要領改訂
ゆとり |

今回はこの
辺りのお話

記述が変わった教科書

③聖徳太子

一番怪しいとされているのが聖徳太子です。私のような昭和の人間には、一万円札の聖徳太子（裏面が鳳凰）で慣れ親しんできたのですが、一九八四年に今の福澤諭吉（裏面が雉）に変わりました。（二〇二四年からは渋沢栄一に）

聖徳太子の功績と言えば、遣隋使の派遣、「憲法十七条」や「冠位十二階」の制定、法隆寺や四天王寺の建立など、これらは教科書にも示されています。

ところが、「聖徳太子」の「聖徳」という名は、死後に後年の人がつけた称号であり、実名とされるのは、『日本書紀』に記されている「厩戸皇子」の方です。また「太子」は、次の天皇になる皇太子のことを指しますが、このころはまだ「天皇」という呼び名はなく、皇太子を先に決めておく制度もなかったとする説が有力です。ですから、「厩戸皇子（聖徳太子）」「厩戸王」「厩戸王子」と表記する教科書もあります。ただ、「聖徳太子」という名前は、長く親しまれた呼称であることも事実であり、今さら変えることに疑問を持つ意見もあります。今の子どもたちの教科書も、「聖徳太子」のみで「厩戸王子」とは記されていません。



です。ですから、「厩戸皇子（聖徳太子）」「厩戸王」「厩戸王子」と表記する教科書もあります。ただ、「聖徳太子」という名前は、長く親しまれた呼称であることも事実であり、今さら変えることに疑問を持つ意見もあります。今の子どもたちの教科書も、「聖徳太子」のみで「厩戸王子」とは記されていません。

混乱を避けるために従来の表記をしているのでしよう。

また、聖徳太子の功績についても疑問視する意見があります。例えば、「これだけのことを一人の力でできるはずはない」「冠位十二階」などは多くの人物による合作」「憲法十七条は後の時代に完成した」「遣隋使は小野妹子より以前から派遣されていた」などです。

更に、頼朝の時と同じで、聖徳太子の肖像画にも疑いの目が向けられています。紙幣の肖像画の元になっているのは、「聖徳太子二王子像」「唐本御影」と呼ばれ、宮内庁が保有する皇室の「御物」です。元々は法隆寺にあったものを、明治時代の廃仏毀釈から守るために皇室に納められたものです。二人の王子を左右に配したこの絵は、聖徳太子を描いた最古のものとされています。しかし、この絵画は、聖徳太子没後、百年以上経った奈良時代に描かれた肖像画であることや、描かれた場所も不明です。いつごろから法隆寺にあったのかなど、不明な点も多いのです。また、持っている笏という板のようなのが、聖徳太子の時代には一般ではなかった。こういう理由から、高校の教科書には「伝聖徳太子像」と記載されているのです。



のようなのが、聖徳太子の時代には一般ではなかった。こういう理由から、高校の教科書には「伝聖徳太子像」と記載されているのです。